

『どんな気持ち？』

○活動のねらい

生徒自らが「気付き」を感じられるなど、生徒の心に落ちる教師の思いが詰まった言葉かけについて熟考することを通して、適切な言葉掛けの大切さに気付く

○所要時間 35分

○トレーニングを受ける人数 3名

活動内容 《 》は領域、【 】はスキル、『 』は活動名	時間 (分)	トレーニング上の留意点 フィードバックの視点
1 《自己理解・他者理解》 【生徒へのかかわり シミュレーション演習】 『どんな気持ち？』 ①ワークシート「どんな気持ち？」に記入 ・記載問題：設問1・2 ※設問ごとに、個々のすべてに記入欄に記入し、全体で発表し合い、深めていく	15	① ・書けるところだけ記入し、書けないところは、話し合いで確認することを伝える ・ワークシート記入上の注意 ○「生徒に発した言葉」の場面設定は、本人とするか、他の教師とするかは、状況に応じて決定する ○「より良い言葉かけは？」は、「○○と話せば良かった」の○○の部分をも具体的に考える あらゆる場面をフィードバック時に賞賛するために行動を共感的に観察する
②ワークシート「どんな気持ち？」に記入 ・設問3は、場面を想定して、普段の教師の言葉かけから考える ※場面想起から、個々にすべての記入欄に記入し、全体で発表し合い、深めていく	10	② ・(設問3の)場面想起では、自分が苦手とする場面を中心に考えることを伝える ・場面を想起できない場合は、いくつかの場面を提示する ○机の周りが散らかっている生徒へ ○授業道具が机上にそろっていない生徒へ ○筆記に適した鉛筆を準備していない生徒へ など あらゆる場面をフィードバック時に賞賛するために行動を共感的に観察する
③エグザサイズのシェアリング	5	☆フィードバックの視点 ・生徒自らが「気付き」を感じられる言葉かけの大切さに気付く ・言葉は同じであってもノンバーバルの部分での違いで受け取り方が違うことに気付く
2 本プログラムを振り返って	5	☆フィードバックの視点 ・生徒の立場に立つことの大切さに気付く
パーソナルプランニング	5	※パーソナルプランニング例 ・学級を一つにするための陰になるサポートと声かけに努める ・合唱練習への取組で、担任が気になっている生徒について話題にし傾聴するサポートできることがないか、その内容から判断して実行していく

パーソナルプランニング後の職員へのかかわりの具体例

サポーターが行ったこと 生徒への再三の注意にもかかわらず、提出物をもってこないことに腹を立てていた担任へ、「(その生徒へ)どう伝えればもってこれそうですか？」と言葉を掛け、生徒への言葉掛けを一緒に考えた	サポーターが感じたことやサポートを受けた職員の様子 一緒に考えたことで、その生徒の家庭状況をふまえて考えることの大切さに、担任と共の自分自身も気付くことができた
--	---